

◆ソニー：ロボット工学の石黒浩教授を『ビジティング・シニア・サイエンティスト』として招聘

ロボット工学領域で顕著な業績を挙げている大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻の石黒浩教授を、2018年7月より「ビジティング・シニア・サイエンティスト」として招聘した。

石黒教授は、様々なアンドロイドやロボットを通じて、心理学や医学の知見に基づき人間の社会的行動や心的状態にもたらす影響の研究などを推進している。今後、AIやロボットが、人々の日常生活に溶け込むためには、技術的・機能的な側面と共に、心理的・社会的関係性の側面が調和したデザインも重要になると見込まれる。その中で、石黒教授の知見は、社会にAIやロボットが導入される際の適切な心理的・社会的デザインに関する重要な洞察を与えてくれると考えている。ソニーはAIとロボティクスの領域において、調理とデリバリー（配達・配膳）というテーマで外部連携のネットワーク化を推進している。2018年4月から米国カーネギーメロン大学との共同研究を開始しており、石黒教授の招聘もこのネットワーク化の一環として実施するもの。今後、石黒教授の高い専門性と知見に基づく助言により、人間の心理や社会的関係性を考慮したロボティクス領域の研究開発が、この連携のネットワークにおいて加速していくことを目指していく。

◆ソニー：ソニービジネスソリューションとエアロセンス有線給電ドローン「AEROBO(R) onAir」を活用したフライトサービスの提供開始



今回提供を開始するフライトサービスは、有線給電ドローンと4K対応カメラを組み合わせたライブ撮影サービス。ドローンへの給電を有線で行い、同じケーブル内で映像も伝送することで、約6時間の長時間連続飛行をしながら、4K高画質のダイナミックな空撮映像をほぼ遅延なく伝送することが可能。また、本サービスには、撮影機材の提供に加え、ドローン操縦や、飛行に必要な申請を行うオペレーターの派遣も含まれている。操縦や申請といった専門知識が必要な部分をすべてオペレーターに任せられるため、ドローン撮影の技術や知見のない人でもドローン空撮をビジネスに活用できる。近年、さまざまな用途で、ドローンを活用した撮影が行われるようになってきた。しかし、一般的な無線ドローンによる撮影では、連続飛行時間が20分程度と短いことに加えて、映像の伝送時に画質を下げる必要があったり、遅延が生じたり

するなど、長時間撮影や高画質が必要とされる用途には向かないという課題があった。今回提供を開始するフライトサービスでは、有線給電方式という特殊なドローンを使用することで、従来不可能であった長時間撮影を可能にすると同時に、光ファイバーケーブルを使用した非圧縮かつ高画質なリアルタイム映像伝送によるライブ運用を実現し、これらの課題に対応している。また、ソニーの業界最先端の4K対応カメラと、エアロセンスの高度な自律飛行技術により、高画質で安定した空撮が可能なおことに加え、ジンバルによるカメラ制御（パン・チルト・ズーム）など、多彩な撮影も可能です。これらの特長を生かし、野外でのライブ中継や、高所の点検作業、災害時に人が入り込めないエリアの状況確認など、さまざまなシーンで活用することができる。今後は、中継車との連携といった顧客のニーズに合わせたソリューションを提供していくとともに、フライトサービスに加え、「AEROBO(R) onAir」を中核としたシステムの販売も展開していく予定。

○サービス提供開始日 2018年7月17日（火）

○特長

- ・長時間、高画質、ほぼ遅延なく、地上100mからのライブ空撮が可能
- ・あらかじめ設定したルートを自律飛行することで、安定した撮影が可能
- ・オペレーターの派遣により、知識不要でドローン空撮が可能

○主な想定用途

- ・放送局での利用
屋外でのライブ中継やイベント撮影、など
- 自治体での利用
災害時の状況確認、高所の点検確認、など
- ・警備事業での利用
屋外イベントでの監視カメラの代替として、など

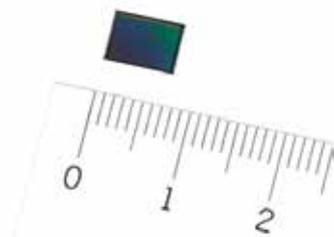
○提供価格

- スタンダードプラン 60万円（税別）/ 1フライト
- * 諸経費は別途。

◆ソニー：業界最多 有効4800万画素のスマートフォン向け積層型CMOSイメージセンサーを商品化

ソニーは、業界最多となる有効4800万画素のスマートフォン向け積層型CMOSイメージセンサー「IMX586」を商品化する。世界で初めて30.8μmの微細な画素サイズを開発することで、本商品は、1/2型（対角8.0mm）であり

ながら有効4800万画素を実現し、撮影画像の高画質化に貢献する。本商品は、隣接4画素が同色のカラーフィルターであるQuad Bayer配列を採用することにより、高感度撮影も可能。低照度時には、隣接する4画素の信号を加算することで、画素サイズ1.6μm相当（1200万画素）に感度を高め、低ノイズで明るい画像の撮影が可能となる。これら



に加えて、ソニー独自の露光制御技術と信号処理機能をイメージセンサーに内蔵することにより、従来と比較して4倍となるダイナミックレンジの広い撮影、及びリアルタイムでの出力を実現する。画面内に明るいところと暗いところが共存するシーンでも白飛びや黒潰れを抑えた画像を撮影することができる。

【主な特長】

1. 世界で初めて30.8 μm の微細画素を開発し、業界最多有効4800万画素を実現

一般的に画素の微細化を進めると、1画素あたりの集光効率が悪くなり、感度が低下するとともに、飽和信号量も低下する。本商品では、集光効率、及び光電変換効率を従来よりも高める設計・製造技術を駆使することにより、感度と飽和信号量の高い世界最30.8 μm の微細画素の開発に初めて成功した。さらに、この新開発の画素を採用することで、対角8.0mmという多くのスマートフォンに搭載可能なサイズでありながら有効4800万画素を実現しました。多画素であるため、デジタルズームを採用するスマートフォンでも、高精細な撮影を可能とする。

2. Quad Bayer 配列の採用により、高感度と高解像度を両立

隣接4画素が同色のカラーフィルターであるQuad Bayer 配列を採用することにより、高感度と高解像度を両立する。夜景撮影等低照度下での撮影時には、隣接する4画素の信号を加算することで、画素サイズ1.6 μm 相当(有効1200万画素)に感度を高め、低ノイズで明るい写真や動画の撮影ができる。日中屋外等での明るいシーン撮影時には、イメージセンサーに搭載した独自の信号処理機能で配列変換することにより、リアルタイムで有効4800万画素の高解像度画像が得られる。

3. 従来比4倍となるダイナミックレンジの広い撮影とリアルタイムでの出力を実現

ソニー独自の露光制御技術と信号処理機能をイメージセンサーに内蔵することにより、従来に比べて4倍となるダイナミックレンジの広い撮影、及びリアルタイムでの出力を実現する。画面内に明るいところと暗いところが共存するシーンでも白飛びや黒潰れを抑えた画像をスマートフォンのディスプレイで見ながら撮影することができる。

◆ソニー：平成30年7月豪雨における被災地・被災者への緊急支援

ソニーはこの豪雨による被災者の支援活動に役立てるため、約1,000万円相当の緊急支援を実施する。その中には、ソニーと子ども支援専門の国際NGOである公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが2016年に共同設立した「子どものための災害時緊急・復興ファンド」からの500万円の拠出、及びソニーグループ各社の社員による救援募金とそれに対するソニーからのマッチングギフト等が含まれる。「子どものための災害時緊急・復興ファンド」からの拠出金は、セーブ・ザ・チルドレンが実施する緊急下の「子どものための心理的応急処置(PFA for Children)」や子どもが安心・安全に過ごすことのできる「こどもひろば」の運営といった支援活動に活用される。ソニーでは、今後も被害の状況や被災地からの支援要請を踏まえ、関係機関と協力し、追加支援策の実施を随時検討していく。

◆パナソニック：無線システム「パナガイド」RD-M750-D/RD-760-Kを発売

パナソニック株式会社は、C型(322MHz帯)無線システム「パナガイド」のワイヤレス送信機RD-M750-D(送信機)およびワイヤレス受信機RD-760-K(受信機)を2018年10月下旬より発売する。

パナガイドは、送信機と受信機の組み合わせで、多数の聴取者に音声を送達できる無線システム。アンテナや中継機などの機器設置が不要で、免許や資格もいらない、手軽に導入できる無線システムとして、工場、美術館、博物館のガイドツアーなどで幅広く活用されてきた。近年は、国際会議での同時通訳や、テレビ中継現場におけるレポーターへの音声指示など用途が多様化し、新たなガイドシステムのニーズが高まっている。今回発売する受信機は高性能DSP(Digital Signal Processor)を搭載し、歪み・ノイズを抑えることで、高音質化を実現した。送信機は、コンデンサーマイクに加えて、オーディオ機器などの外部からの音声入力や2つの音声を合成するミキシングにも対応し、複数の音声を同時に送信することができる。送受信チャンネル数は従来比となる12チャンネルまで拡大し、多言語で使用する際など、より多くのチャンネル切り替えも可能になった。また、小型軽量・簡単操作、免許や資格が不要など従来の特長は継承し、1997年以降の発売機種と組み合わせても使えるよう、互換性を確保している。



パナガイドは、システムの規模や形態を問わない拡張性と柔軟性で、幅広い用途に対応し、企業、美術館や博物館、国際会議、放送局など様々な業界で役立つことを目指している。

【製品概要】

愛称：パナガイド

品名：ワイヤレス送信機 RD-M750-D 49,800円(税別)

ワイヤレス受信機 RD-760-K 37,800円(税別)

発売時期：2018年10月下旬

【主な特長】

1. 高性能DSPを搭載し、歪み・ノイズを抑えたデジタル高音質化を実現(受信機) 高性能DSPを搭載して、歪み・ノイズを従来比80%削減。突然、大音量が入力されても音割れがおきないようオートゲインコントロール機能も搭載するなど、幅広い入力で、より歪みの少ない聞き取りやすい音質を実現した。

2. 外部入力とミキシング対応により同時に複数の音声送信が可能(送信機)

従来は、コンデンサーマイクからの音声のみ送信が可能であったが、ダイナミックマイクやオーディオ機器などの外部入力からの音声にも対応した。また、ミキシングコードを使用することで、複数の入力音声を同時にミキシングして送信できるようになった。外部機器とのミキシングに対応することで、例えば、国際会議などで、離れた場所にいる発表者とパネリストの通訳音声をミキシングして送信することも可能となった。

3. 12チャンネル送受信で多様な用途に対応(送信機・受信機)

従来の倍となる最大12種類の周波数を使用でき、切り替えも簡単に設定できる。例えば、国際会議などの同時通訳において、1チャンネルは日本語、2チャンネルは英語、3チャンネルは中国語、4チャンネルは韓国語・・・という多言語使用をはじめ、チャンネル設定を活用するだけで、様々な使用シーンに対応することができる。

4. より快適に使える付属品・機能

・タイピン型モノラルマイクロホン(コンデンサーマイク) 付属(送信機)

ヘアスタイルが気になるときや、安全ヘルメット装着時でも使用できるように、コンデンサーマイクを送信機に付属した。マイクにはクリップがついているため、衣服などに簡単に取り付けができ、両手が自由に使えるようになる。

・回転式耳かきイヤホン付属(受信機)

よりスムーズに耳にかけられるように、アーム部が、約350度回転できる耳かきイヤホンを受信機に付属した。耳かけ式なので長時間使用にも違和感なく装着できるとともに、簡単に汚れをふき取れるよう、メンテナンスのしやすさを考慮し、全体がプラスチック部材できている。

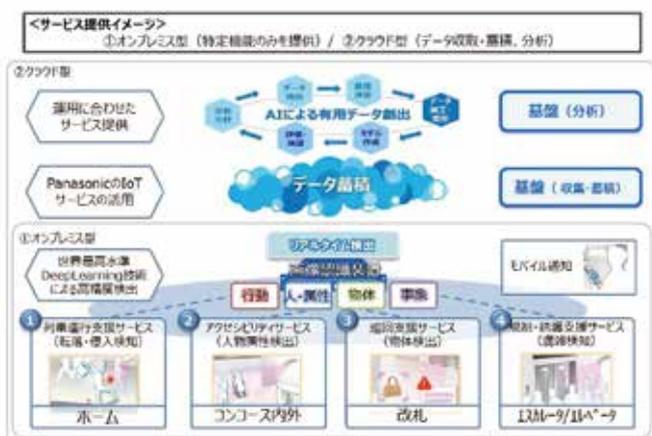
・ノイズスケルチ方式を採用(受信機)

電波が発信されていないチャンネルを受信したときに聞こえるノイズ音を自動的にミュートする。これにより、受信機を起動するだけで、未使用のチャンネルが確認でき、送信者がスムーズにチャンネルを設定できる。

・豊富なアクセサリ(別売品) - 差し込むだけで22台までが同時に充電可能「専用充電器 RD-9622Z」(オープン価格)

・充電器と本体22台を収納できる「トランク AD-RDAL3B」(希望小売価格70,000円(税別))

◆パナソニック：鉄道事業者向け画像認識技術を活用した安心・安全、業務支援サービスを開始



パナソニック株式会社及びパナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社 (以下パナソニック)は、駅(ホーム、コンコース、改札外)運用の更なる安心・安全と、駅業務従事者の業務支援及び施設利用者に対するサービス向上を目的として、画像認識技術(人物、属性、行動、物体など)を活用した安心・安全、業務支援サービスの提供を開始する。昨今、セキュリティニーズの傾向として、年々増加する

様々なインシデントに対する迅速な検知と対応力の向上、労働人口減や熟練高齢化の労働力減少を踏まえた業務の効率化、車いす・白杖などPRM (Passengers with Reduced Mobility : 身体の不自由な乗客)に対するサービス向上が求められている。本サービスは、駅で発生する様々な事象を、画像認識技術を活用して自動検出を行い、いち早く駅業務従事者に対して通知することで、安心・安全の確保に加え、業務支援をサポートする。

サービスの特長は以下3点。

- ・世界最高水準の画像認識技術を活用し、顔の認証のみではなく、人物の姿、姿勢、行動を組み合わせた高精度な人物認証検知
- ・車いすや白杖のようなPRMの検知や、混雑・滞留などの事象の検知が可能
- ・検知結果を駅業務従事者に対して直接通知するなど、運用を考慮したサービス

鉄道事業者を中心に、以下4点の業務支援サービスを2018年度下期から順次提供開始する。

(1)列車運行支援サービス

本サービスは、駅ホーム上の危険行動をインシデントとして検出して通知を行う。駅ホーム上で特に危険といわれている、線路内への落下のほか、点字エリア内への長時間滞在を検出し、駅業務従事者に知らせることで、人身事故などの重大事故の防止を支援する。将来的には、うろつきや酔客などの検出による機能強化や、行動による事故前検出などさらなる安心・安全に貢献していく。

(2)アクセシビリティ支援サービス

本サービスは、駅構内外におけるPRMをイベントとして検出して通知を行う。駅構内外において、車いす・ベビーカー・白杖・松葉杖などを使用したPRMを検出し、駅業務従事者に通知、駅業務従事者間の情報共有の円滑化を支援する。車いす使用者の待ち時間の低減や、ベビーカー使用者へのご案内、白杖、松葉杖使用者への細かな配慮を可能にし、カスタマー満足度の向上を行う。

(3)巡回支援サービス

本サービスは、駅構内外における不審物の検出や、改札付近での鉄道利用者が使用している荷物を検出し通知を行う。危険物や忘れ物を即座に検出し通知する事で、駅構内外で定期的に行っている巡回業務を軽減させ駅業務従事者の業務を支援する。また近年、増加している大型荷物利用者を検出し注意喚起や乗降時のサポートをスムーズにして、定時運行へのサポートを実施していく。

(4)規制・誘導支援サービス

本サービスは、エスカレータやエレベータ付近、ホーム上の人の混雑、滞留をイベントとして検出して通知を行う。エスカレータ、エレベータ付近、ホーム上の混雑をリアルタイムで通知する事により、混雑による事故を未然に防止する支援を行う。将来的には、混雑数値化によるダイヤ改正時の支援やエスカレータ、エレベータへの緩和制御などを実施していく。

さらに今後は、各サービスの機能拡充、空港や街中などへのサービス展開の他、パナソニックの強みであるエッジデバイス技術やIoT技術を活用し、危険の未然防止・業務改善を行う新しいサービスの提供も行っていく。

◆朋栄：名古屋テレビ放送が、フットサル大会中継に Pixellot 社 AI カメラシステムを活用

株式会社朋栄が輸入取扱を行うイスラエルPixellot (以下 ピクセロット) 社のAI カメラシステム「Pixellot Standard (以下 ピクセロットスタンダード)」は、2018年7月7日(土)、8日(日)に、株式会社コミュニティネットワークセンター(本社:愛知県名古屋市中区、以下 CNCI) が主催するフットサル大会「CNCI ケーブルテレビフットサルフェスタ in Oasis21」において、試合映像の撮影、ライブ配信に活用された。このデモンストレーションは、名古屋テレビ放送株式会社(本社:愛知県名古屋市中区、以下 メ〜テレ) と CNCI が共同で実施し、朋栄は機材提供ならびに技術協力として参加した。同大会は、U-8、U-10、U-12、U-14 のカテゴリを対象にしたフットサル大会で、ピクセロットスタンダードは、フットサルコート脇にセッティングし、約5mの高さから2日間で計45試合を撮影し、ライブ配信した。今回の撮影について、メ〜テレ 技術戦略部 原 大智は次のように話している。

「ピクセロットスタンダードは、最低2名でセッティングでき、朝セットアップした後は、ほぼ一日中カメラマンなしでの自動オペレーションで撮影・配信が可能のため、運用の手間がないことを実感しました。屋外での利用でしたが、2日間トラブルなく配信し続けることができ、安定性にも優れています。屋外では電源を確保することが難しいのですが、カメラ本体に電源を引かなくても良い点も、スポーツ中継に適した良いポイントだと思います。AIによる自動カメラワークということで、どのようなカメラワークになるか不安な点もありましたが、良い意味で期待を裏切る見やすいカメラワークを行なっていました。」

ライブ配信の様子は、決勝戦会場の名古屋栄・オアシス21に設置したモニタで表示し、来場者に確認してもらった。

◆朋栄：平成30年7月豪雨に対する被災者支援

平成30年7月豪雨により被災された地域にて朋栄製品のユーザーは、今回の豪雨により機材の故障等の問題が発生している場合、朋栄にて無償修理対応すると発表した。

【被災地における機器修理対応連絡先】

朋栄サービスセンター TEL: 03-3446-8575 (24時間365日受付)

尚、広島県広島市にある中国営業所および福岡県福岡市にある九州営業所は通常通り営業とのこと。その他、東京 本社をはじめ、支店、各営業所も通常通り営業を行っている。

◆ブラックマジックデザイン：2018年夏に公開予定の期待作30本以上に Blackmagic Design 製品を使用

Blackmagic Design はこの日、2018年夏に世界各地で公開予定作、30本以上の制作 およびポストプロダクションに多数の Blackmagic Design 製品が使用されたと発表した。これには、同社のデジタルフィルムカメラ、編集/カラーコレクション/MAアプリケーションの DaVinci Resolve Studio など が含まれる。「デッドプール2」や「ジュラシック・ワールド/炎の王国」を始めとする、最大ヒット作や今夏期待の超大作に、同社製品が使用されている。

世界各地で制作された今夏の作品のプロダクションおよびポストプロダクションのあらゆる段階で、Blackmagic Design の製品が使用された。DaVinci Resolve は、これまで通り、世界有数のエディター、カ ラリスト、ポストプロダクション施設の多数により選ばれているアプリケーションだ。「デッドプール2」で EFILM のスキップ・キンボル (Skip Kimball) 氏、「ハン・ソロ/スター・ウォーズ・ストーリー」で Harbor Picture Company のジョー・ゴラー (Joe Gawler) 氏、「Mile 22」で Company 3 のステファン・ソネンフェルド (Stefan Sonnenfeld) 氏などが、同アプリケーションを使用している。

プロダクションで Blackmagic Design 製品を使用した今夏公開の映画 - マーベル・スタジオの「アベンジャーズ/インフィニティ・ウォー」:DIT カイル・スパイサー (Kyle Spicer) が DaVinci Resolve、UltraStudio、SmartVideohub 40x40、DeckLink Quad 2、DeckLink Mini Monitor、多数のコンバーターをオンセットの作業に使用。

- マーベル・スタジオの「アントマン & ワズプ」:DIT ダニエル・コロムベラ (Daniele Colombera) が多数の Blackmagic Design キャプチャー・再生デバイス、Mini Converter、Mini Monitor、SmartScope Duo、Smart Videohub、DaVinci Resolve をオンセットの作業に使用。

- 「The Darkest Minds」:アクションシーン撮影監督ポール・ヒューヘン (Paul Hughen)、ASC、アクションシーン監督ジャック・ギル (Jack Gill) が、4台の Micro Studio Camera 4K をスタント用の軽量小型カメラとして使用。

- 「デッドプール2」:DIT サイモン・ジョーリ (Simon Jori) が、DaVinci Resolve および ATEM 1M/E をグリーン/ブルーバックおよびオンセットの作業に使用。

- 「Dog Days」:DIT デイン・ブレム (Dane Brehm) が、Smart Videohub CleanSwitch 12x12、SmartScope Duo、SmartView Duo をオンセットの作業に使用。

- 「ザ・ファースト・バージ」:DIT ルイス・ローゼンバーグ (Lewis Rothenberg) が、UltraStudio 4K、HDLINK、Smart Videohub 20x20、Smart Videohub 16x16 をオンセットの作業に使用。

- 「ホテル・アルテミス」:DIT ロニー・ダンラー (Lonny Danler) が、DaVinci Resolve、Micro Videohub、DeckLink Mini Monitor をオンセットの作業に使用。

- 「Mile 22」:DIT アーバン・オルソン (Urban Olsson) が、Teranex Mini SDI to HDMI、MultiView 4、Smart Videohub 20x20、DeckLink 4K Extreme 12G、Ultrastudio 4K、Ultrastudio、DaVinci Resolve をオンセットの作業、およびオンセットでの監督用 VR モニタリング・ソリューションとして使用。

- 「オーバーボード」:DIT マーク・アラン (Mark Allan) が、DaVinci Resolve、HDLINK、UltraStudio Express をオンセットの作業に使用。

- 「Show Dogs」:DIT トーマス・パトリック (Thomas Patrick) が、DaVinci Resolve、HyperDeck Studio、複数の SmartView モニターおよび Videohub モニターをオンセットの作業に使用。

- 「Siberia」:撮影監督エリック・コーレツ (Eric Koretz) が、Video Assist 4K を接続した Micro Studio Camera 4K、DaVinci Resolve、DaVinci Resolve Micro Panel をオンセットで異なるルッ

クを試すために使用。

-「シカリオ：デイ・オブ・ソルダード」：DIT ライアン・グエン (Ryan Nguyen) が多数のルーター、Mini Monitor、DeckLink カード、DaVinci Resolve をオンセットの作業に使用。

-「スカイスクレイパー」：セカンドユニット DIT マーク・アラン (Mark Allan) が、HDLINK、UltraStudio Express、DaVinci Resolve をオンセットの作業に使用。

ポストプロダクションで DaVinci Resolve Studio を使用した作品 (敬称略)：

-「アドリフト」：Company 3 のステファン・ソネンフェルド (Stefan Sonnenfeld)

-「American Animals」：The Orchard の依頼により、Goldcrest のロブ・ピッツィ (Rob Pizze)

-「デッドプール 2」：Deluxe 社 EFILM のスキップ・キンボール (Skip Kimball)

-「Hearts Beat Loud」：Color Collective のマイク・ハウエル (Mike Howell)

-「Juliet, Naked」：Goldcrest のナット・ジェンクス (Nat Jencks)

-「ジュラシック・ワールド/炎の王国」：Goldcrest のアダム・グラスマン (Adam Glasman)

-「A Kid Like Jake」：Goldcrest のナット・ジェンクス (Nat Jencks)

-「Madeline's Madeline」：Goldcrest のナット・ジェンクス (Nat Jencks)

-「Mile 22」：Company 3 のステファン・ソネンフェルド (Stefan Sonnenfeld)

-「The Miseducation of Cameron Post」：Goldcrest のナット・ジェンクス (Nat Jencks)

-「On Chesil Beach」：Company 3 のトム・プール (Tom Poole)

-「オーバーボード」：MTI Film のトレント・ジョンソン (Trent Johnson)

-「RBG」：Glue Editing & Design のケン・シルルニック (Sirulnick) が、Fusion Studio と合わせてスタビライゼーションに使用。

-「シカリオ：デイ・オブ・ソルダード」：Company 3 のスティーブン・ナカムラ (Stephen Nakamura)

-「スカイスクレイパー」：Company 3 のステファン・ソネンフェルド (Stefan Sonnenfeld)

-「ハン・ソロ/スター・ウォーズ・ストーリー」ルーカスフィルム制作、ウォルト・ディズニー・スタジオ・モーション・ピクチャーズ 配給：Harbor Picture Company のジョー・ゴラー (Joe Gawler)

-「Sorry to Bother You」：Goldcrest のサム・デイリー (Sam Daley)

-「Sorry to Bother You」：Beast のダレン・オー (Darren Orr) が VFX に使用。

-「SuperFly」：Company 3 のデイビッド・ハッシー (David Hussey)

◆ティアック：『MiNiSTUDIO CREATOR US-42W』を販売開始

ティアック株式会社は、家庭用放送機器 (USB オーディオインターフェース) 『MiNiSTUDIO CREATOR US-42W』を TASCAM (タ

スカム) ブランドで販売開始した。MiNiSTUDIO CREATOR US-42W は、インターネット配信用のオーディオインターフェース。歌ってみた配信に必須のリバースエフェクトや昨今人気の VR CHAT やバーチャルキャストにお勧めのボイスエフェクト、テレビやラジオさながらの効果音演出を可能にする PON 出し機能など、配信を盛り上げるための機能を一台に凝縮。配信用途だけでなく、DAW 作曲の音楽制作やゲーム実況動画の編集などにも対応するモデル。



【主な特長】

- Windows を中心に Mac/iOS デバイスにも対応したインターネット配信専用オーディオインターフェース
- ネット配信や話題の VR/バーチャルキャストでも PON 機能、ボイスエフェクト、リバース搭載で音声演出も思いのまま、クリアな声と効果音で差をつけられる
- 専用ソフトウェアで用途に応じた豊富なモード選択とお気に入りシーン登録でかんたんに使える
- ボーカルとギター、対談番組など様々な用途に活用できる 2 つの入力端子

- 動画コンテンツ制作や音楽制作に最適な CREATOR モードを搭載
- *****

◆オタリテック：Ehrlund 社 EHR-H ハンドヘルド・コンデンサー・マイクロフォン販売開始

オタリテックはスウェーデン Ehrlund 社のハンドヘルド・コンデンサー・マイクロフォン「EHR-H」の販売を開始した。「EHR-H」は Ehrlund 社の先日発売を開始した「EHR-M」スタジオ・コンデンサー・マイクロフォン同様のトライングル・カプセル・メンブレン (三角形型振動版) を搭載したスタジオユースはもちろん、ライブユースでの使用も想定したハンドヘルド型コンデンサー・マイクロフォン。「EHR-M」同様トランジェントの良いクリアな音質とスピード感のある低域が特徴のトライングル・メンブレンの音質をハンドヘルドタイプで実現した。



【仕様】

- TYPE：Ehrlund 特許取得済み三角形振動版を用いたコンデンサー・マイクロフォン
- 指向特性：カーディオイド
- 周波数範囲：7 ~ 87,000 Hz
- インピーダンス：周波数応答を変えずにどのようなインピーダンスにも対応
- セルフノイズ (絶対レベル)：max. 9 dBA
- 最大入力音圧レベル：135 dB
- 動作電圧：48 V ファンタム電源、2.0 mA
- コネクター：標準 3 ピン XLR

◆ゼンハイザー：ヘッドフォン HD 820 発売

HD 820 は、2018 年1月のCES（アメリカ・ラスベガス）で初披露して以降、日本でも「ヘッドフォン祭」「ポタフェス」などの展示会や販売様でのイベントで先行展示・試聴を行ってきた。2018年7月19日に予約を開始し、8月2日に発売を開始する。密閉型デザインのダイナミックステレオヘッドフォンHD 820は、反響音を最小限に抑制する独自のガラストランスデューサーカバーにより、驚くほど透明感のあるサウンドを実現。どこまでもリアルでナチュラルな音場を生み出す、革新的なヘッドフォン。

【仕様】

型式：ダイナミック・オープン型

周波数特性：12 - 43800 Hz (-3 dB)

6 - 48000 Hz (-10 dB)

インピーダンス：300 Ω

音圧レベル：103 dB at 1 kHz, 1V

質量：約360g(ケーブル重量除く)

接続ケーブル：ケーブル長3.0m(両だし)、

6.3 mm ステレオ標準プラグ(ストレート型)

バランスプラグ (XLR-4)

.4mm 5 極バランスPentaconn プラグ



◆エレクトロ：Radial Engineering 社新製品 Backtrack 販売開始

Radial Engineering 社の新製品Backtrack は、2つのステレオ入力に接続したオーディオソースの切り替えを瞬時に行うことができるステレオ・バッキングトラック・スイッチャー。ライブで再生中のバッキングトラックに異常が起きた場合、もう一方の入力に接続しているバックアップユニットにシームレスに切り替えることができる。切り替えは、本体にあるスイッチもしくはオプションのフットスイッチ JR-2 を使用する。

製品名.....Backtrack

希望小売価格.....

税抜定価 ¥70,000

(税込¥75,600)

製品コード.....

EAN:0676101044627

出荷開始日.....

2018年7月13日



◆放送文化基金：8K 小型カメラ開発により4社が『第44回放送文化基金賞』を受賞

ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社と日本放送協会（NHK）、株式会社日立国際電気、池上通信機株式会社の4社は、8K 小型カメラの開発・実用化における貢献で、第44回放送文化基金賞を共同受賞した。

選考理由として、「8K・SHV 放送の実用化へ向け当初の 80kg を超

えるカメラの小型化は8K コンテンツ制作上必須の課題であった。新たな撮像素子の開発や信号処理の最適化により高感度化、HDR への対応等高性能化を図りつつカメラ重量を当初の 1/10 以下に小型化し、現行TV 放送と同様なコンテンツ制作を可能とさせたことは高く評価できる。今後、国内にとどまらず海外も含め、広く映像制作に活用されることが期待できる。」としている。

◆テレテック：HD107 中継車に CALREC 社 ARTEMIS オーディオ・コンソール導入

株式会社テレテック（本社：東京都港区芝公園、代表取締役社長 小嶋昭男）は、この度、同社の基幹中継車である 4K 対応の HD-107 号車の音声コンソールに CALREC 社の ARTEMIS 40 フェーダーを導入した。

この HD-107 号車は 4K/60P に対応している国内唯一のボルボ FH12 のダブルエキスパンド大型トレーラーで、CALREC 社の ARTEMIS の導入にあたっては、2020 年の東京オリンピック開催に向けて車載機器の新規導入を計画していたところ、フェーダー類の使い勝手と操作性の良さが導入の決め手となった模様。

同社ではこの他に保有している 106(4K 対応)、108(4K 対応)、109、110、801(4K 対応)、901(SNG 対応)のトータル7台の中継車の他、インターネット対応配信システムを保有し Abema TV 等の LIVE 配信にも積極的に取り組んでいる。

